

# 「治療の副作用(骨の照射を受けられる方)」

## ◆予測される副作用

骨髄抑制、関節痛、骨折など



### 《骨髄抑制》

血液細胞をつくる骨髄が影響を受けると、血液を作る機能が低下します。血液細胞のうち、白血球が減少すると感染症、赤血球が減少すると貧血、血小板が減少すると出血などが起こりやすくなります。これらの副作用は自分では症状を自覚しづらい点に注意が必要です。血液検査の結果をよく確認し、医師の指示に従って適切な対処を受けましょう。

感染症の起こる部位は、口の中、肺、尿路、皮膚など多岐にわたります。37.5℃以上の発熱は一つの指標になるでしょう。

貧血は息切れや倦怠感、ふらつき、動悸などの症状がみられる場合があります。

出血は日常生活の動作の中で、鼻血や歯ぐきからの出血、内出血などが起こる場合があります。血が止まりにくい、出血が続く場合には医師や看護師に相談しましょう。



### 《骨の疼痛、関節痛、骨折》

がんが転移した骨はもろくなり、痛みがあったり、骨折しやすくなったりしています。さらに、放射線治療で照射部位に一時的に炎症が起こり、痛みが生じる事もあります。また、放射線で骨折予防の対処をしても、高い所から飛び降りたり、ぶついたりなど強い衝撃を与えることには注意が必要です。

特に、転倒することで骨折の危険があるため、普段からサイズの合った靴を使用するようにしたり、下肢の筋力低下を予防するため軽い運動をするよう心掛けましょう。



### 《神経症状》

背骨の治療をする場合、放射線が脊髄と脊髄神経にも影響を及ぼす場合があります。例えば、手や足の痺れや感覚障害、動かしにくくなる運動障害が起きる場合がありますし、排尿や排便が上手くいかなくなる排泄障害が起こる場合もあります。異常を感じたら速やかに医師や看護師に伝えましょう。

\*ケアについてお困りのことがあれば、看護師へご相談ください\*